

1 - 1		主題	入浴だけのサービスを受けたいよ、それだけじゃ駄目なのかい？	
地域の需要		副題	～ドヤ街のオアシスを目指して～	
個別入浴				
研究期間	15ヶ月	事業所	台東区立 みのわ高齢者在宅サービスセンター	
発表者：相談員 石田 須美子			アドバイザー：	
共同研究者：高橋 恵児				
電 話	03-5603-2245	メール	zai-mino@bz03.plala.or.jp	
FAX	03-5603-2240	URL	http://minowa-welfare.web.infoseek.co.jp/	

今回発表の事業所やサービスの紹介	台東区社会福祉事業団が母体であるみのわ高齢者在宅サービスセンターは、三ノ輪福祉センター内にあり、通所介護・認知症対応型通所介護・小規模通所介護の三つの事業を展開して織ります。今回、発表する通所介護は1日の定員40名としているが、滞在時間については、利用者の希望するサービスに沿った滞在時間（6～8滞在・4～6滞在・3～4滞在）を設定している。介護予防対象者についてもグループを分けて受け入れをしている。
------------------	---

《研究前の状況と課題》 ・当デイサービスのエリア内には、日雇い労働者の滞在する日本最大級の簡易宿泊所街俗に言うドヤ街といわれる地域があります。 - 昭和の高度経済成長期を支えた日雇い労働者の街は、身寄りのない高齢者の多い街に変わりつつあります。そこを生活拠点としている高齢者で介護サービスを必要とされている方が多い。 ・その高齢者が望むサービスがお風呂だけの利用である（簡易宿泊所のお風呂が自分で入れなくなってしまった） ・デイサービスを運営する側としては入浴サービスのみを提供することは採算がとれない事業であるが、通所介護の一律的なサービス内容と6～8時間滞在の設定の疑問 ・入浴サービスを希望される方の清潔保持があまり保てていなく集団での入浴が困難である	《研究の目標と期待する成果》 ・地域の介護サービス利用者の需要を担えるサービスの実施 ・利用者の希望するサービス内容と滞在時間の設定 ・経営を考えた採算のとれるサービス実施 ・簡易宿泊所での生活は、環境面全般に課題がある。デイサービスでの入浴を通して、清潔保持が保てるように、自宅での排泄、食事、洗濯など日常生活が改善されるような働きかけのきっかけになるような支援 ・地域包括ケアに向けた通所介護の役割の確立（ケアマネジャーとの連携強化）
--	--

《具体的な取り組みの内容》

- ・ 入浴環境（設備）を変える
- ① 集団入浴ではなく個別に対応できる入浴環境
- ② 入浴サービスのみ希望をする方が落ち着いて過ごせる環境作り
- ③ 入浴サービスが生活におけるリハビリになる
- ④ 利用者の希望するサービスと滞在時間の設定（6－8時間滞在の以外の設定）
- ・ 人と関わるのが苦手な方のサービス提供
- ① 他サービス利用者との関わりを最小限にする環境作り（利用者皆様の個性が強く、短時間一緒にいる中でトラブルが多い為）
- ② 環境作りについて精神科の医師のアドバイスをいただく（同施設内の地域密着型サービスの勉強会にて）
- ・ 入浴サービス提供を採算のとれるサービスに（短時間利用での）

《取り組みの結果と評価》

- ・ 限定されたサービス提供のため、地域の需要は高く、申し込みが増えている（地域に必要なサービスの確立）
- ・ 地域のケアマネジャーとの連携することでの、通所介護のサービスの在り方が明確になった
- ・ 利用者が希望する滞在時間別のニーズが把握できた（年度別 利用滞在時間推移）
- ・ 環境作りを行ったことでのトラブル減少
- ・ 環境作りは進んでおり需要も高く、希望者は多いが事業所全体の経営を考えるとすぐに定員を増やして受け入れることに躊躇している、事業所のサービスを総合的に考えると更なる工夫が必要となる

《まとめ》

- ・ 利用される方のニーズとサービス提供する側の両方が満足できる環境を構築していくことが大事です

《参考文献》

なし

《提案と発信》

デイサービスに入浴サービスは当たり前、しかしそのサービスを利用者と事業者側両方のニーズが満足することは簡単なことではないと思っております、私達の取り組みが少しでもお互いが満足できる方向に近づければと・・・

【メモ欄】